

自己点検・評価での課題への対応

部局等 ライフサイエンス支援センター

自己点検・評価での課題等 (令和6年1月実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>基準番号：2-2、4-2</p> <p>技術職員の定年退職に伴う技術及び知識の承継が課題である。また、近年の生命医科学技術の進歩に対応できる高度な遺伝子組換えや核酸配列の解析に関わる技術や、実験の基礎となる機器等の利用方法等を学生等に教授できる知識・技術を有する専門性の高い職員の確保が求められる。</p>	<p>バイオ部門と生物部門では、定年退職した技術職員各1名を再雇用職員として配置し、平成31年度及び令和5年度に新たに採用した技術職員(計3名)への技術継承を進めている。ただし、バイオ部門では今後の助手及び助教の定年退職に伴う後任人事については、研究支援を主たる業務とするセンターの特性を考慮した上で、近年の生命医科学技術の進歩に伴い、高度な遺伝子組換えや核酸配列の解析に関わる技術を有する職員が求められていることなどを踏まえて長期的に人員計画を立てる必要がある。</p>	<p>令和6年度末で定年退職予定の助手の後任人事は、令和6年4月の人事会議において技術職員として採用することの承認を受けた。</p> <p>センターの機能強化を図るために、本技術職員を「ライフサイエンスリサーチコンシェルジュ」として配置し、研究者(センター利用者)が取得したい実験データやそのための実験方法等に関する相談を受け付け、実験手法の提案、設備・機器の説明等、相談者に寄り添った支援を実施する予定である。</p> <p>なお、技術職員公募の結果、2名の応募があったが、採用には至らなかったため、令和7年度卒業予定者も含めて、令和7年1月末を締切として再公募中である。</p>
<p>基準番号：3-5</p> <p>大学の機能を最大限発揮するために基盤となる施設及び設備について、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用化を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくために機能強化を図る必要がある。</p>	<p>令和6年度には、全学的なマネジメントによる戦略的な研究機器の整備や運用を協議するための委員会の設置が予定されており、今後は当該委員会にて方針等が決定されるものと考えている。また、既に共通機器の利用予約システムの導入が内定しており、学外者の利用促進を進める体制は整いつつあるが、HPなどを通じて社会への情報発信に努める。</p>	<p>全学的な視点から研究設備の戦略的な導入・整備・運用を協議するため、令和6年4月に「研究設備企画調整委員会」が設置された。同委員会はこれまでに2回開催され、学長裁量経費共用化推進経費の配分や研究設備整備計画の策定について議論を行った。</p> <p>また、バイオ実験機器部門および生物資源部門で使用していた機器予約システム(サイボウズ)の更新が困難なことから、利用者の利便性向上や共用機器更新時の利用実績データ取得を考慮した新たな機器予約システムを eOffice 内に開設し、令和6年11月より稼働開始している。</p>

<p>基準番号：5-2</p> <p>センター内には使用不能の実験室があり、改修費の確保が見込めないためそのままとなっている。</p>	<p>経年劣化により使用不能となっている実験室はあるものの、現時点でセンター活動を実施する上での十分なスペースは確保されていることから、改修費の負担を可とするセンター以外の部局等があればスペースを譲渡したい。</p>	<p>ライフサイエンス支援センター放射線同位元素実験部門 (RI 部門) の廃止が令和6年10月23日開催の役員会にて最終決定されたことを受け、今後、当該スペースを有効活用すべく、概算要求 (施設整備費) にて新たな「ライフサイエンス創生センター」開設のための予算要求を行っており、改修によって更なる機能強化が図られる予定である。</p> <p>なお、現在、バイオ実験機器部門の管理している実験室の中で使用が困難な実験室を簡易に整備することで、RI 部門で保管している法令で永久保存が義務づけられている各書類の保管場所として利用予定である。</p>
<p>基準番号：7-2</p> <p>センター長は学長指名の兼任教員による任期制のため、長期的な視点に立ったセンターの管理運営は難しい。</p>	<p>センターの適正な管理運営は、生命医科学機器に関する知識が豊富で管理運営能力を持ったセンター長によるガバナンスの下で行われる。センター長は学長指名による短期間の兼務である現状では、長期的な視点に立った施策を継続することは難しい。</p>	<p>現センター長は、バイオ実験機器部門や生物資源部門の利用実績が高くセンターを詳細に把握しているため慣例よりも長く任期 (7年目) を務めており、センター教職員や松岡キャンパス研究推進課と綿密に連携・協力しながら、センターの運営を安定に進めている。次年度以降には、RI 部門の廃止と RI 施設の改修、RI 改修後施設を利用したバイオ実験機器部門の再編等すべき課題が山積していることから、これらに対応できるセンター長の配置を要望したい。また、センターの第一目的である「本学の生命医科学研究の推進 (研究業績の向上)」を達成するためには、医工連携を強化するとともに、本学の研究状況に合わせて柔軟に対応できるセンターに改善することが必要と思われる。これらの課題を学内で情報共有するとともに、後進の人材育成を進めることでセンターの役割を達成できるように運営する。</p>

※記入欄は適宜追加してください。